

株式会社 西大阪自動車

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023年1月1日 ~ 2023年12月31日)



<環境低減巡回サービスカー>



認証番号 0003379

作成日: 2024年1月18日
更新日:

環境経営方針

企業理念

私たちは社員とその家族私たちにご縁のある方々の幸せを追求します。
私たちは心の研鑽に励み、人格の向上に努めることにより社会に貢献します。

環境理念

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者として最重要課題です。二酸化炭素排出量、廃棄物排出量そして水使用量の削減に取り組みます。
またエコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減や、エンジン洗浄により二酸化炭素の削減を計り社会に貢献し、またさらに省エネである低公害車の販売に努めます。
企業のあらゆる活動面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

環境行動方針

私たちが生活する中で、自動車はなくてはならないものです。しかし、自動車の有害な排出ガスにより環境汚染を引き起こしています。そこで少しでも現在の環境汚染の低減に配慮した活動の指針として、以下の事項をひとりひとりが責任を持ち取り組むことで、環境経営の継続改善を目指します。

(1) 二酸化炭素排出量・削減の推進

限りある資源である化石燃料の削減、節電などの取り組み、社有車の整備・アイドリングストップ・エコドライブの徹底に努め、グリーン購入法「特定調達品目」のエンジン洗浄を実施します。

(2) 廃棄物排出量・削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために廃棄物の分別処理を行います。

(3) 水使用量の節約による総排水量・削減の推進

事業所内で使用する水の節約を徹底し、総排水量の削減に努めます。

(4) エコ整備・エコ車検の推進

有害な排出ガスの削減になるエコ整備・エコ車検を推進します。そこでお客様に促進を計るため、エコ整備の有用性についての説明技術やエコ整備技術の向上に努めます。

(5) リサイクル活動による省資源化の推進

省資源のために、リサイクル自動車部品の使用を積極的に推進します。

(6) エコカー販売

自動車販売の際に、環境に配慮したエコカー（ハイブリッド車、アイドリングストップ車）を推進します。

(7) グリーン購入の促進

環境に配慮した物品の購入に努めます。

(8) 社会貢献への取り組み

会社周辺の清掃活動を行います。

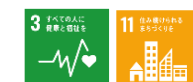
(9) 化学物質(フロン)の適正管理を行います。

※ 有害化学物質の削減の目標設定は行わない。

(10) 人材の育成

環境経営に貢献できる人材の育成を図ります。

適切な環境経営を行い、環境関連法規制等を遵守することを誓約します。



制定日：2006年8月9日

改定日：2023年3月8日

代表取締役 黒岡 雅一

持続可能な開発目標 (SDGs)と日本の取組



SDGs(持続可能な開発目標)17の目標&169ターゲット

(外務省資料より)

持続可能な開発目標 (SDGs)について

SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



SDGsの構造

17のゴールは、①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

人間の安全保障との関連性

我が国は脆弱な立場にある一人一人に焦点を当てる「人間の安全保障」の考え方を国際社会で長年主導してきました。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、こうした考え方とも一致するものです。

SDGsの特徴

前身のMDGs(Millennium Development Goals: ミレニアム開発目標)は主として開発途上国向けの目標でしたが、SDGsは、先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的(ユニバーサル)な目標となっています。(図1)

しかしながら、これらの目標は、各国政府による取組だけでは達成が困難です。企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。

まさにSDGs達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられているのです。

SDGs達成に向けて

2019年9月に開催された「SDGサミット」で、グテーレス国連事務総長は、「取組は進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取組を拡大・加速しなければならない。2030年までをSDGs達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」とSDGsの進捗に危機感を表明しました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に地球規模で拡大したことからも明らかのように、グローバル化が進んだ現代においては、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が団結して取り組む必要があります。

SDGs達成に向けた道のりは決して明るいものではありません。だからこそ、「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え、一歩踏み出す姿勢が求められています。

(図1)



持続可能な開発目標(SDGs)の詳細

	目標1【貧困】 あらゆる場所あらゆる形態の 貧困を終わらせる		目標2【飢餓】 飢餓を終わらせ、食料安全保障 及び栄養の改善を実現し、 持続可能な農業を促進する
	目標3【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の 健康的な生活を確保し、福祉を促進する		目標4【教育】 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い 教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
	目標5【ジェンダー】 ジェンダー平等を達成し、 すべての女性及び女児の エンパワメントを行う		目標6【水・衛生】 すべての人々の水と衛生の利用可能性と 持続可能な管理を確保する
	目標7【エネルギー】 すべての人々の、安価かつ信頼できる 持続可能な近代的なエネルギーへの アクセスを確保する		目標8【経済成長と雇用】 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての 人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある 人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
	目標9【インフラ、産業化、 イノベーション】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、 包摂的かつ持続可能な産業化の促進 及びイノベーションの推進を図る		目標10【不平等】 国内及び各国家間の不平等を是正する
	目標11【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で 持続可能な都市及び人間居住を実現する		目標12【持続可能な消費と生産】 持続可能な消費生産形態を確保する
	目標13【気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる		目標14【海洋資源】 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を 保全し、持続可能な形で利用する
	目標15【陸上資源】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利 用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠 化への対処ならびに土地の劣化の阻止・ 回復及び生物多様性の損失を阻止する		目標16【平和】 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会 を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提 供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責 任のある包摂的な制度を構築する
	目標17【実施手段】 持続可能な開発のための実施手段を 強化し、グローバル・パートナーシップを 活性化する		

3

(外務省資料より)

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 西大阪自動車
代表取締役 黒岡 雅一
- (2) 所在地
本社・工場 〒550-0025 大阪府大阪市西区九条南1-9-29
第二工場 〒550-0025 大阪府大阪市西区九条南1-9-6
ショールーム 〒550-0025 大阪府大阪市西区九条南1-9-29
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務部 部長 守本 幸一 TEL:06-6581-2690
担当者 保険部 中尾 晃 FAX:06-6581-2728
- (4) 事業内容
自動車整備・販売、保険代理店業、レンタカー業

- (5) 事業の規模

売上高 2.7億円
入庫台数 8,965台/年

	正社員	パート	合計
従業員 名	20	5	25
	本社・工場	第2工場	
延べ床面積 m ²	581.1	112.5	693.6

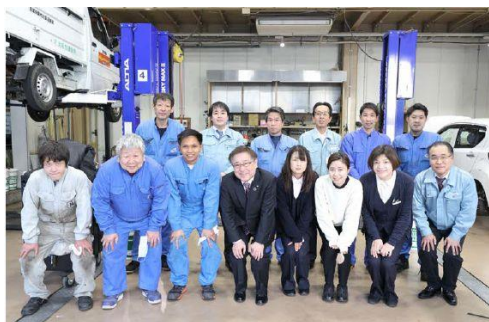
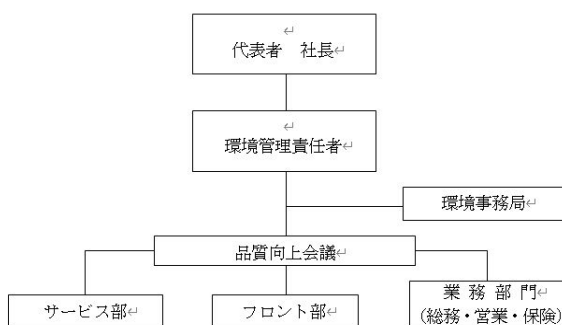
- (6) 事業年度 1月1日～12月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名: 株式会社 西大阪自動車
対象事業所: 本社・工場
第二工場
ショールーム
対象外: なし

活動: 自動車整備・販売、保険代理店業、レンタカー業

□EA21実施体制



	役割・責任・権限
代表者 (社長)	- 環境管理責任者を任命 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境目標の設定を承認 - 環境経営システムの実施に必要な人 - 設備、費用、時間等経営資源を準備 - 環境経営システムの定期的見直しの実施 - 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	- 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者 - 法規制等の要求事項登録簿を承認 - 環境活動実施計画書を承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	- 環境管理責任者、EA21推進会議の事務局 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 「環境関連法規等チェックリスト」の作成 - 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 - 環境活動実施計画の実績集計
品質向上会議	- 環境経営計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価
フロント部	- CO₂削減の為に整備研究・技術開発 - 各種環境汚染防止整備の実施・推進 - リサイクル品の活用(リサイクルパーツの積極的利用)
サービス部	- ゴミの分別処理の徹底 - 整理・整頓・清掃・清潔 - アイドリングストップ・エコドライブの推奨
業務部門 (総務・営業・保険)	- 省資源・省エネルギーの推進 ①エコドライブの推奨②節水・節電・紙消費量の削減③グリーン購入比率アップの推進④ハイブリットカーの販売促進

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2017年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	52,404	35,854	36,708	38,194
廃棄物排出量	kg	70,680	52,768	24,353	22,142
一般廃棄物排出量	kg	500	500	615	585
産業廃棄物排出量	kg	70,180	52,268	23,738	21,557
水使用量	m ³	532	650	596	479

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.334 kg-CO₂/kWh(関西電力 年度調整後排出係数

※上記の二酸化炭素総排出量には、都市ガス使用量による 1,441 kg-CO₂を含む。

□環境目標及びその実績

項 目		年 度	基準値	2023年		2024年	2025年
			(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂		15,808	15,017	14,218	14,859	14,701
	基準比						
	目標比		2017年	95%	95%	94%	93%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂		27,699	26,314	22,535	26,037	25,760
	基準比						
	目標比		2017年	95%	86%	94%	93%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂		43,506	41,331	36,753	40,896	40,461
一般廃棄物の削減	kg		530	493	485	488	482
	基準比						
	目標比		2015年	93%	98%	92%	91%
産業廃棄物の削減	kg		60,890	54,801	21,557	54,192	53,583
	基準比						
	目標比		2015年	90%	39%	89%	88%
水道水使用量の削減	m ³		539	501	479	496	490
	基準比						
	目標比		2015年	93%	96%	92%	91%
グリーン調達の促進	%		45%	45%	59%	45%	45%
	基準比						
	目標比		年	前年比同	131%	前年比同	前年比同
エコカー販売の促進	台		13	13	20	14	14
	基準比						
	目標比		2018年	106%	154%	107%	108%
社会貢献	毎朝工場周辺の清掃を行っている。						

※ 電力・自動車燃料の削減では、増築及び事業統合による増車のため目標値の設定と基準年度の変更を行った。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標:○達成 ×未達成

◎よくできた △さらに取り組む ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	目標達成。全員に電気使用削減について周知できたことが、目標達成につながっている。今後とも目標達成手段を定期的に確認し、削減に努めていく。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・不要照明の消灯	◎	
・ノー残業デーの実施	△	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	
・作業改善・業務改善の推進	○	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	○	目標達成。営業が1人増えて、業務量が増大しているにもかかわらず目標達成。今後は、車両の燃費が良くなっているため、目標設定の基準を見直すことにする。
・エコドライブ10の実践	○	
・自転車・単車の活用	◎	
・無駄のない巡回経路の選択	◎	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	目標達成。全員に分別徹底を周知できたことで、一般廃棄物の削減につながっている。今後とも目標達成手段を定期的に確認し、削減に努めていく。
・整理・整頓と分別の徹底	△	
・紙類のリサイクル化	○	
・コピー用紙の裏紙使用	○	
産業廃棄物の削減		
数値目標	○	目標達成。全員に分別徹底を周知できたことで、廃プラと金属くずの削減につながっている。今後とも目標達成手段を定期的に確認し、削減に努めていく。
・整理整頓と分別	○	
・再資源化の促進	○	
水道水使用量の削減		
数値目標	○	目標達成。全員に節水を周知できたことで、洗濯での水使用量の削減につながっている。また、近隣のガソリンスタンドでの自動洗車を増やすことで、今後とも目標達成手段を定期的に確認し、削減に努めていく。
・トイレ・手洗い時の節水	△	
・洗車用のホースへのストップノズル取付	○	
・トイレ用タンクに1Lペットボトル据付	○	

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標:○達成 ×未達成

◎よくできた △さらに取り組む ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
グリーン調達の促進		
数値目標	○	目標達成。グリーン購入に対する認識が社内に浸透することで、環境の良い商品調達につながっている。今後とも継続して取り組みを実施していくが、来期からは目標設定を行わないこととする。
・有害性の少ない資材の購入	○	
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	○	
・事務用品グリーン購入比率向上	◎	
エコカー販売の促進		
数値目標	○	目標達成。新車納期が改善されたことで乗用車の販売が増えたことによりエコカー販売につながっている。今後とも目標達成状況や手段を定期的に確認し、より一層増大に努めていく。
・ハイブリッドカーの販売強化	○	
社会貢献		
・会社回りの清掃	○	今後とも、会社・工場周辺の清掃活動を行う。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年7月27日 2023年11月29日	■実施場所： 事務所・工場
■参加者： 全社員	■実施内容： 事務所で火災発生を想定し、避難経路確認 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■責任者講評： 消防訓練は、問題なく無事終了しました。 日頃より訓練をして、火災を起こさないことはもちろんですが、万一の際に慌てず、消火、通報、避難が訓練通りできるようにする。 また、火の始末は確実に行うように心がけてください。	
■対応策： 緊急事態対応手順書についての検証 手順書の通り行うことが出来ましたが、掛け声と確認の連携が確実にできるようにすることが大切だと感じた。	
■実施状況の様子 	

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： オイル漏れ事故	
■実施日： 2023年11月29日	■実施場所： 本社工場
■参加者： 全社員	■実施内容： 工場内でオイル漏れ事故が発生 オイルの流出を防ぎ、砂や吸着マットで処理する
■責任者講評： オイルの処理も問題なく、迅速かつ丁寧な対応ができていた。 事故は起こさないのが一番ですが、実際の事故の時も同様に対応できるように日頃からの訓練が大切だと感じた。	
■対応策： 緊急事態対応手順書についての検証 砂や吸着マットの保管場所を全員が周知し、万一の場合、迅速に行動が出来るように手順書を熟知する。	
■実施状況の様子  	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

主な適用法規等	該当する活動	遵法評価	適・否
廃棄物処理法	一般・産業廃棄物の保管と委託	交付状況報告	適
	産業廃棄物の管理表		適
	(プラスチック・タイヤ・バッテリー・金属くず・廃油)		適
消防法	少量危険物の保管届出	届出基準数量未滿	適
フロン排出抑制法	業務用クーラーの業者引き渡し、簡易点検記録	引渡しなし、記録保管	適
使用済自動車の再資源化に関する法律	使用済自動車の適正な処理	業登録証確認	適
家電リサイクル法	テレビ・冷蔵庫・洗濯機など	廃棄なし	適
資源有効利用促進法	パソコンなど指定再商品化	引渡しなし	適
騒音規制法	コンプレッサー(11kW1台)	届出済	適
振動規制法	コンプレッサー(11kW1台)	届出済	適
下水道法	油水分離	自主管理	適
水質汚濁防止法	油水分離及び有害物質の流出事故時の措置と届出	自主管理	適

□違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

消防法に基づく年次点検を実施済みで、法規の遵守状況をチェックし、問題ありません。

また、期間中に外部からの苦情の受付はありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

電力、自動車燃料、産業廃棄物、一般廃棄物、水使用量は削減でき、目標も達成できた。業務量が増大にしているにもかかわらず達成できたことはEA21に取り組みが浸透できている成果と考えられる。今後もより一層、強化を図っていく。

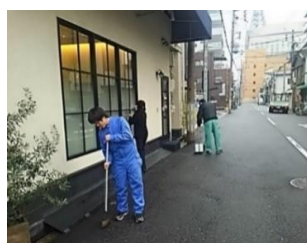
カーボンニュートラルやSDGsへの取組が社会的課題となっている。また、震災や災害が増えていることからBCPIにも取り組んでいく考えです。こうしたことをエコアクション21を活用して、これらの課題解決に向けて、全社挙げて推進していく。

令和6年1月18日 実施

環境経営方針	変更なし	—
環境経営目標・計画	変更あり	グリーン購入は目標設定は行わない。
実施体制	変更なし	—

□社会貢献

毎朝、会社周辺の清掃で、地域清掃活動の社会貢献を行っています。



□研修、勉強会

毎月第二月曜日に人間学を学ぶ月刊誌「致知」を使った勉強会『木鶏会』を開催しています。

毎月の特集テーマがあり、その中の3つの記事を読んで、感想文を分科会チームの3～4人で発表し合い、その中で一番良かった感想文を選び、チームの代表として、全員の前で発表します。

人間力とコミュニケーション力、発言力、理解力の仕事力を高め、仕事効率や生産性の向上に繋げていきたい。また、保険やコンプライアンス、エコアクションの研修を随時行っており、知識・能力を高め、社員育成に努める。

